3. 中心市街地の活性化の目標

[1] 中心市街地の活性化の目標

高知市中心市街地活性化の基本的な方針を踏まえ、以下の 2 つの目標を定める。

目標①　暮らすにも働くにも「ぼっちり」なまち

これまで住み続けられるための居住環境等の整備が現行計画で進められてきた。中心市街地を日常的に利用する層が居住者や通勤・通学者であることを踏まえ、中心市街地に住む人は「住み続けたい」と思うこと、また中心市街地外に住む人が「中心市街地に住みたい」「働きたい」と思うような居心地の良い空間や魅力を作っていくために、都市公園のリニューアルやマンション整備、空き店舗の活用等に取り組むことで、前計画の施策効果により増加傾向となっている居住人口を維持向上させ、市全体の賑わいや活力を創出する拠点としての機能の充実を図り、日常利用する子どもや若者、高齢者まであらゆる市民・住民にとっても、中心市街地で働く人にとっても便利で、「ぼっちり（＝丁度良い）」な、ずっと暮らしたい、働きたいと思う「おまち」を目指す。

目標②　おまちのさらなる魅力向上と賑わいの回復

商業・観光・文化・教育など多様な機能が集積しており、前計画までの事業によりオーテピア等のハード整備が進捗し、中心市街地の魅力が向上したものの、新型コロナウイルス感染症の影響もあり来街者数や滞在時間が減少したため、その回復を図る。そのために、高知大丸のローカリティフロアの展開やおまち多目的広場利活用事業、商店街イベント事業の推進、シェアサイクルの導入等の施策に取り組むことで、中心市街地の魅力向上と賑わいの回復を図り、魅力ある店舗やコンテンツの体験・交流の機会を増やし、何度でも訪れたくなる「おまち」を目指す。

[2] 計画期間

本基本計画の計画期間は、令和 5 年 4 月から事業の推進及び完了による活性化効果が見込まれる令和 10 年 3 月までの 5 年間とする。

［3］目標指標の設定

本計画は、前計画の進捗や社会情勢の変化等から生じた中心市街地の新たな課題を解決し、引き続き中心市街地全体の活性化を図っていく。

中心市街地の将来像を「暮らす・働く・訪れ遊ぶ　魅力共創の『おまち』へ」とし、新しいまちの実現を目指す目標の達成状況を的確に把握できるよう、以下の３つの目標指標を設定し、その考え方を示す。また、目標指標を補完する参考指標も設定する。

「目標①　暮らすにも働くにも「ぼっちり」なまち」に関する指標

○目標指標：中心市街地の居住人口

目標①の実現に向け、中心市街地に住む人は「住み続けたい」と思うこと、また中心市街地外に住む人が「中心市街地に住みたい」「働きたい」と思うまちであるためには、中心市街地の居住人口を確保・維持していくことが必要であり、目標指標として「中心市街地の居住人口」を設定する。

○参考指標１：中心市街地の社会増減数

目標①の実現に向け、「住み続けたい」または「中心市街地に住みたい」と思うまちであるためには、中心市街地の居住人口を確保・維持していくことが必要であり、中心市街地の人口移動を検証する参考指標として「社会増減数」を設定する。

○参考指標２：中心市街地商店街の営業店舗数

中心市街地に暮らす人も働く人にとっても「ぼっちり」なおまちの形成に向け、営業店舗を増加させることで、多様なニーズに対応し、便利で居心地のよい空間や店舗を作っていく。そのため、目標指標の「中心市街地の居住人口」の他、参考指標として「中心市街地の営業店舗数」を設定する。

○参考指標３：中心市街地の新規出店数

中心市街地に暮らす人も働く人にとっても「ぼっちり」なおまちの形成に向け、中心市街地の新規出店数を増加させることで便利で居心地のよい空間や店舗を作り、また、「参考指標１　中心市街地の営業店舗数」の確保にもつなげる。

「目標②　おまちのさらなる魅力向上と賑わいの回復」に関する指標

〇目標指標：中心市街地の歩行者通行量

前計画で、帯屋町チェントロや高知城歴史博物館、オーテピア等の整備により新たな人の流れが生まれた一方、コロナ禍による外出自粛やイベント中止等によりまちなかの回遊が停滞した。目標②の実現にむけ、中心市街地エリアにおいて来街者の回遊を回復・促進を図るため、前計画に引き続き、目標指標として「中心市街地の歩行者通行量」を設定する。

〇参考指標１：拠点施設入館者数

目標②の実現に向け、来街者の増加を検証するため、前計画の指標としていた拠点施設（オーテピア、高知城歴史博物館、かるぽーと、よさこい情報交流館）の入館者数を引き続き参考指標として設定する。

〇参考指標２：中心市街地商店街の空き店舗率

中心市街地の魅力向上と賑わいの回復に向け、空き店舗を活用し、魅力ある店舗を増加させることで、商店街の魅力を高め、何度でも訪れたくなる「おまち」として充実を図る。そのため、商店街のニーズへの対応と活気の向上を検証する参考指標として「中心市街地商店街の空き店舗率」を設定する。

〇参考指標３：宿泊者数

中心市街地の魅力向上と賑わいの回復に向け、ナイトタイムエコノミー等の夜間の中心市街地の魅力を高めることで、宿泊を含めた滞在時間及び滞在日数の延伸を図る。そのため、来訪者の滞在日数の延伸を検証する参考指標として「宿泊者数」を設定する。なお、高知市内の宿泊施設は，中心市街地及びその周辺に多く立地していることから，中心市街地の賑わいを測る参考指標として有効なものと考えられるため、高知市内の宿泊者数を参考指標として用いるものとする。

［4］数値目標の設定

（1）「目標①：暮らすにも働くにも「ぼっちり」なまち」に関する数値目標

○評価指標１：中心市街地の居住人口

目標①の実現に向け、中心市街地に住む人は「住み続けたい」と思うこと、また中心市街地外に住む人が「中心市街地に住みたい」「働きたい」と思うまちであるためには、中心市街地の居住人口を確保・維持していくことが必要であり、目標指標として「中心市街地の居住人口」を設定する。

基準値		目標値
5, 529 人 （令和 3 年度末）	→	5, 776 人 （令和 9 年度末）

247 人増加

①基準値の設定

基準値は、最新実測値（令和 3 年度）を設定する。

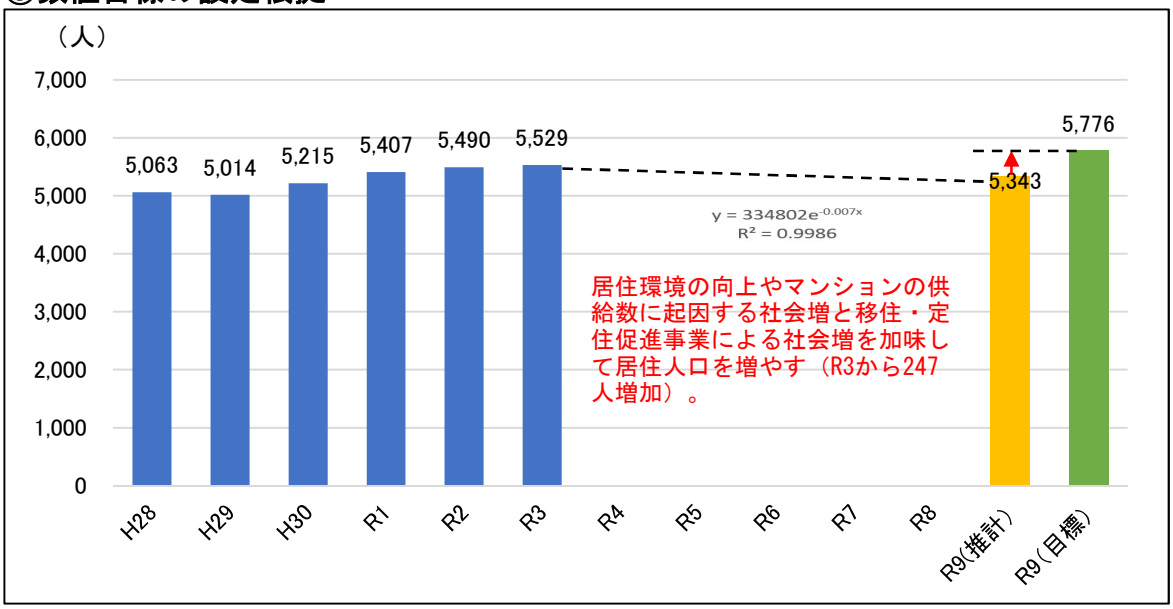
・令和 3 年度の中心市街地の人口　5, 529 人

②数値目標の設定

数値目標は以下の積算項目により設定する。

積算項目	数値
1)新計画において新規施策実施がない場合の令和 9 年度推計値	5, 343 人
2)藤並公園整備事業等による居住環境向上に伴い見込まれる居住者の増加	+267 人
3)マンションの供給戸数増により見込まれる居住者の増加	+132 人
4)移住・定住促進事業により見込まれる人口の社会増	+34 人
合計	**5, 776 人**

③数値目標の設定根拠



■中心市街地の居住人口の推計

１）新計画において新規施策実施がない場合の令和 9 年度推計値

「国立社会保障・人口問題研究所」の推計から令和 9 年度の市全体の人口は 310,616 人と推計され、令和 3 年度人口 320,722 人から 10,106 人減少すると見込まれる。

（※推計値は、近似式により推計した数値　$y = 334802e^{-0.007x}$　$R^2 = 0.9986$）

中心市街地において新計画による新たな活性化の取組が行われない場合の令和 9 年度推計値は、現行水準のままで推移すると考えられるため、前計画期間中の中心市街地の居住人口割合の実績値※からの推計値 5,343 人とする。

（※令和 3 年度実績値 1.72%が令和 4 年以降も継続すると設定）

令和 9 年度推計値 5,343 人

２）藤並公園整備事業等による居住環境向上に伴い見込まれる居住者の増加

「藤並公園整備事業」による公園整備や,「空き店舗を活用した創業支援サポート事業」による新規出店及び多様な店舗の集積により居住環境を向上させることで、令和 9 年度の中心市街地の居住人口の推計値（5,343 人）の 5%（267 人）の居住人口増加を見込む。

藤並公園整備事業等における居住環境向上による居住者の増加数

・令和 9 年度の中心市街地の居住人口の推計値　5,343 人

5,343 人 × 5% ＝ 267 人増加

３）マンションの供給戸数増により見込まれる居住者の増加

「ビ・ウェル追手筋」整備事業による民間分譲マンションの整備により住居 30 戸が、また、「ビ・ウェル菜園場」整備事業により住居 52 戸供給され、計 82 戸供給される。中心市街地における 1 世帯当たりの平均居住人員を 1.61 人（令和 3 年度実績）とすると、上記事業により 132 人の居住者増加を見込む。

「ビ・ウェル追手筋」「ビ・ウェル菜園場」整備事業により見込まれる増加数

・供給戸数　82 戸

1.61 人 × 82 戸 ＝ 132 人増加

４）移住・定住促進事業により見込まれる人口の社会増

市総合計画では県外からの移住組数の目標を 200 組以上と設定していることから、そのうち、中心市街地に居住する世帯割合と、5 年間の人口増を加味し、34 人の居住者増加を見込む。

・県外からの移住組数 200 組のうち、中心市街地に居住する世帯数

200 世帯 × 2.1%※ ＝ 4.2 世帯　　※市全体に対する中心市街地の世帯数の割合（令和 3 年度実績）

・5 年間の居住人口の増加数

4.2 世帯 × 1.61 人 × 5 年 ＝ 34 人増加　※移住 1 世帯当たりの平均居住人数（令和 3 年度実績）

以上、2）～4）の効果により、433 人増加することが見込まれ、令和 9 年度の中心市街地の人口は 1）の推計値から加算した数値 5,776 人（5,343 人 + 433 人）となる。

④フォローアップの考え方

中心市街地の居住人口は高知市全体の居住人口と併せ、毎年住民基本台帳による集計を行い、目標達成の進捗を確認する。また、必要に応じて年代別居住者数や定着率等の動向も考慮し、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。

なお、目標年の令和 9 年度の数値についても、その結果を踏まえて検証を行うものとする。

○参考指標１：中心市街地の社会増減数

目標①の実現に向け、「住み続けたい」または「中心市街地に住みたい」と思うまちであるためには、中心市街地の居住人口を確保・維持していくことが必要であり、中心市街地の人口移動を検証する参考指標として「社会増減数」を設定する。

基準値		目標値
75 人 （令和 3 年度）	→	92 人 （令和 9 年度）

17 人増加

①基準値の設定

基準値は、最新実測値（令和 3 年度）を設定する。

・基準値　令和 3 年度の中心市街地の社会増減数　75 人

②数値目標の設定

数値目標は、目標指標である「中心市街地の居住人口」より、令和 9 年度目標とする中心市街地の居住人口推計値から社会増減を算出し、92 人と設定する。

③数値目標の設定根拠

令和 9 年度の社会増減について、以下の通り算出する。

令和 9 年居住人口は令和 3 年居住人口に 6 年間の自然増減と社会増減の和で算出される。

・令和 9 年居住人口＝令和 3 年居住人口（基準値）＋ 6 年間自然増減 ＋ 6 年間社会増減

・6 年間社会増減＝令和 9 年居住人口（目標値）－ 令和 3 年居住人口（基準値）－ 6 年間自然増減

・自然増減の推計

平成 25 年～令和 3 年における中心市街地居住人口の自然増減の推移から推計すると，令和 9 年の自然増減は -51.3 人となる。

令和 9 年度の自然増減数 -51.3 人　※近似式 y ＝ 0.1402ln(x) -51.644

6 年間の自然増減数は -51.3 人 × 6 年間　＝ -307.7 人

したがって、6 年間の社会増減数は、

5,776 人 － 5,529 人 －（-307.7 人）　＝ 554.7 人

以上より、年間当たりの社会増減数は 6 年で案分し、令和 9 年目標数値として設定する。

554.7 ÷ 6 年間 ＝ 92.45 人 ≒ 92 人

○参考指標２：中心市街地商店街の営業店舗数

中心市街地に暮らす人も働く人にとっても「ぼっちり」なまちの形成に向け、営業店舗を増加させることで、多様なニーズに対応し、便利で居心地のよい空間を作っていく。そのため、目標指標の居住人口の割合の他、参考指標として「中心市街地商店街の営業店舗数」を設定する。

※中心市街地商店街は以下のとおり

はりまや橋商店街、京町商店街、新京橋商店街、壱番街商店街、帯屋町一丁目商店街、帯屋町二丁目商店街、おびさんロード商店街、中の橋商店街、柳町商店街、大橋通り商店街、魚の棚商店街、天神橋通商店街、菜園場商店街、升形商店街

基準値		目標値
552 店舗 （令和 3 年度）	→	571 店舗 （令和 9 年度）

19 店舗増加

①基準値の設定

基準値は、最新実測値（令和 3 年度）を設定する。

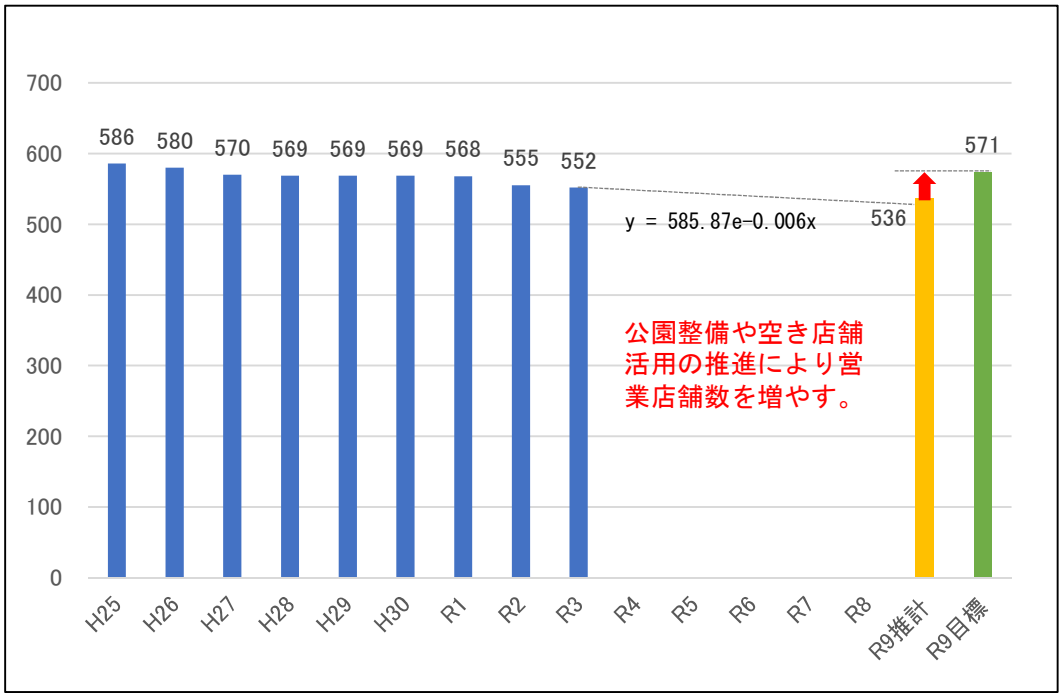
・令和 3 年度の中心市街地の営業店舗数　552 店舗

②数値目標の設定

数値目標は以下の積算項目により設定する。

積算項目	数値
1) 新計画において新規施策実施がない場合の令和 9 年度推計値	536 店舗
2) 主要事業の実施による積算	+35 店舗
合計	**571 店舗**

③数値目標の設定根拠



■中心市街地の営業店舗数の推計

１）新計画において新規施策実施がない場合の令和９年度推計値

高知商工会議所と高知市が毎年 12 月に実施している商店街空き店舗調査における平成 25 年～令和 3 年の数値から推計を行った令和 9 年の値は 536 店舗となった。

・令和 9 年度営業店舗数（推計値）　<u>536 店舗</u>　※近似式：$y = 585.87e^{-0.006x}$

２）主要事業の実施による積算

藤並公園の再整備による回遊性の向上や民間マンション整備事業による居住者の増加により近隣エリアでの買い物やサービスのニーズが高まり、空き店舗を活用した創業支援サポート事業、空き店舗ツアー事業の実施により、中心市街地 14 商店街のうち半数の商店街で年間 1 店舗が増加すると仮定し、5 年間で 35 店舗の増加を見込む。

・主要事業の実施による出店数の増加
（14 商店街÷2）× 1 店舗増/年 × 5 年間 ＝ <u>35 店舗増</u>

以上、1）～2）の合計により、令和 9 年度の営業店舗数の目標を 571 店舗と設定する。

536 店舗 + 35 店舗 ＝ <u>571 店舗</u>

○参考指標３：中心市街地の新規出店数

中心市街地に暮らす人も働く人にとっても「ぼっちり」なおまちの形成に向け、中心市街地の新規出店数を増加させることで便利で居心地のよい空間や店舗を作り、また、「参考指標①中心市街地の営業店舗数」の確保にもつなげる。

基準値		目標値
64 店舗 （平成 29 年度 -令和 3 年度累計）	→	85 店舗 （令和 5 年度 -令和 9 年度累計）

21 店舗増加

①基準値の設定

基準値は、前期計画登載の空き店舗対策事業における本市の補助事業を活用し、中心市街地エリアに出店した店舗数（平成 29 年～令和 3 年）を設定する。

・基準値　平成 29 年度から令和 3 年度の累計新規出店数　64 店舗

②数値目標の設定

数値目標は以下の積算項目により設定する。

積算項目	数値
1)前期計画の空き店舗対策事業の継続による出店数の積算	75 店舗
2)新規事業の実施による出店数の増加	+10 店舗
合計	**85 店舗**

③数値目標の設定根拠

１）前期計画登載事業における創業支援施策の継続

前期計画登載の空き店舗対策事業における本市の補助事業を活用し、中心市街地エリアに出店した店舗の令和元年から令和 3 年までの合計数は 43 店舗であり、1 年度当たりの平均出店数は約 15 店舗となる。新計画においても支援施策を継続した場合、15 店舗×5 年間＝75 店舗と見込む。

・1 年度当たりの高知市空き店舗活用創業支援事業費補助金による出店数（令和元年から令和 3 年実績）
　43 店舗 ÷ 3 年間 ＝ 14.3 店舗 ≒ 15 店舗
・令和 5 年～令和 9 年の出店数（推計）
　15 店舗 × 5 年間 ＝ 75 店舗

２）新規事業の実施による出店数の増加

空き店舗を活用した創業支援サポート事業において、移住者を対象にした創業支援のメニュー拡充や、中心市街地空き店舗ツアー事業の実施により、中心市街地における出店を促進することで、年間 2 店舗、5 年間で 10 店舗の出店を見込む。

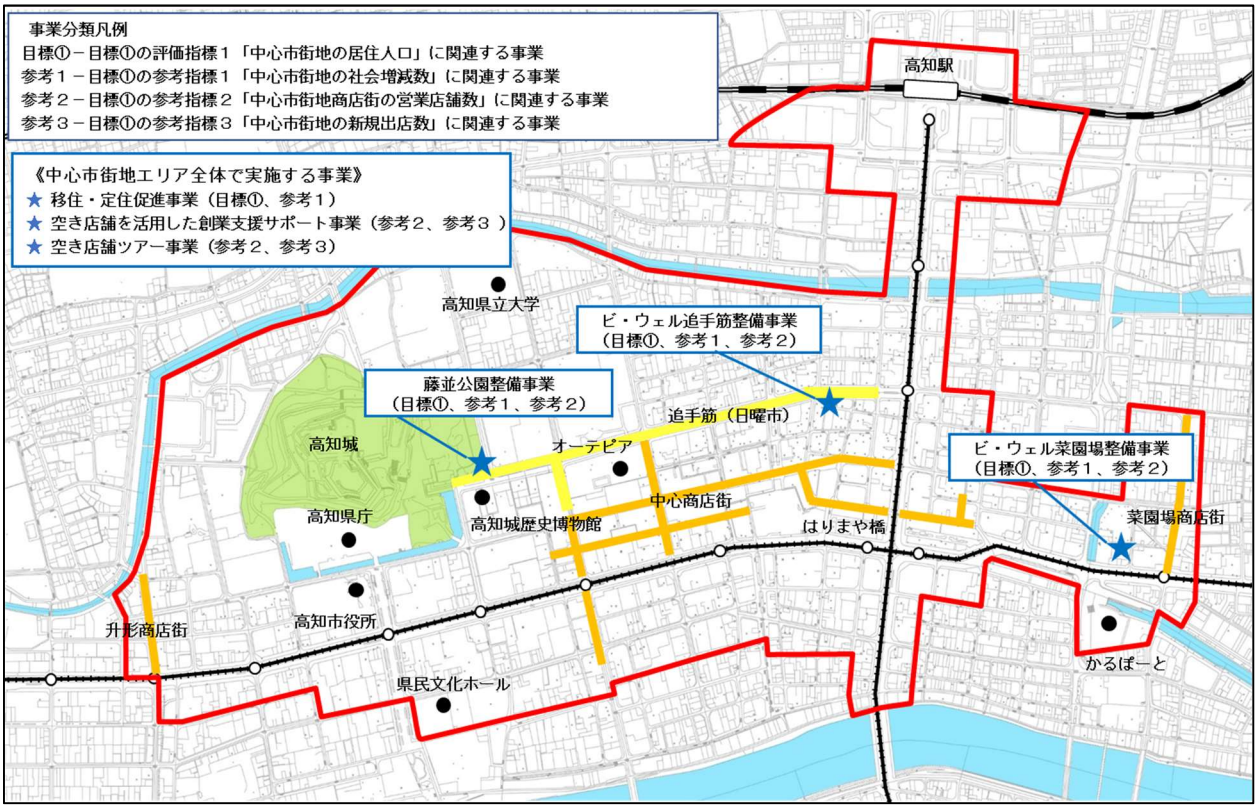
・空き店舗を活用した創業支援サポート事業による出店数
　2 店舗 × 5 年間 ＝ 10 店舗

以上より、1）～2）の効果により、<u>85 店舗</u>出店すると設定する。

※参考指標３：中心市街地の新規出店数については「空き店舗を活用した創業支援サポート事業」を活用し新規出店した店舗数を指標とする。

■「目標①：暮らすにも働くにも「ぼっちり」なまち」の評価指標（中心市街地の居住人口）及び参考指標に関する事業の実施

箇所



（２）「目標②　おまちのさらなる魅力向上と賑わいの回復」に関する数値目標

○評価指標２：中心市街地の歩行者通行量（17 地点・冬季・平日休日 2 日の合計）

基準値	→	目標値
104, 188 人 （令和 3 年度）		128, 004 人 （令和 9 年度）

23, 816 人増加

①基準値の設定

基準値は最新実測値（令和 3 年度 104, 188 人）を用いる。

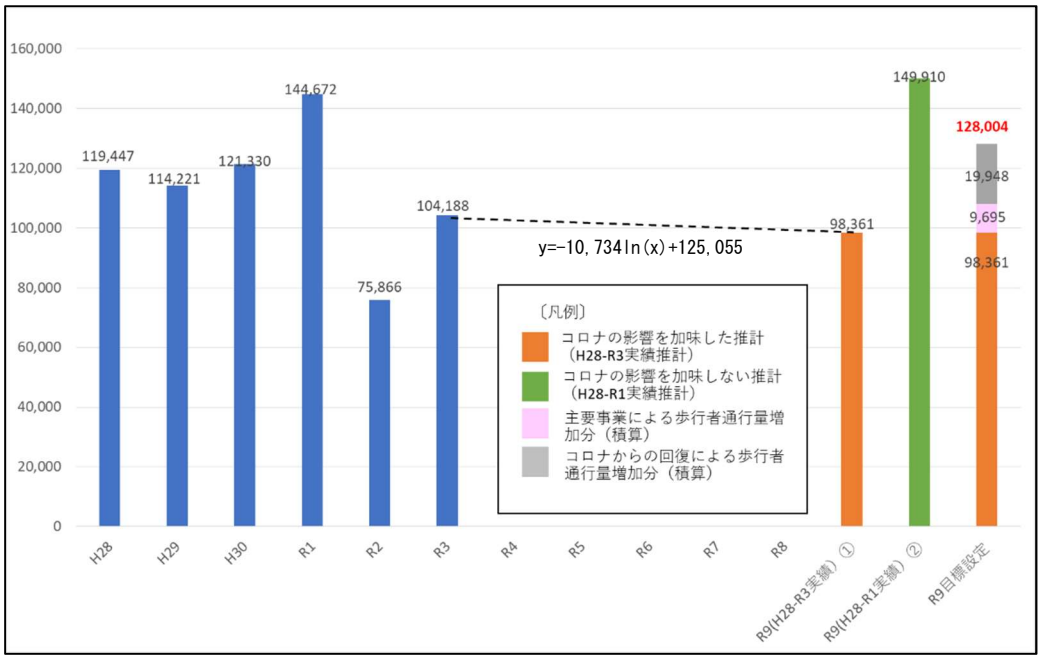
・基準値　令和 3 年度 104, 188 人

②数値目標の設定

数値目標は以下の積算項目により設定する。

積算項目	数値
1）新計画において新規施策実施がない場合の令和 9 年度推計値	98, 361 人
2）高知大丸「OMACHI360」の展開による増加	+1, 302 人
3）おまち多目的広場利活用事業による増加	+3, 385 人
4）商店街イベント事業による増加	+4, 918 人
5）シェアサイクル事業による増加	+90 人
6）新型コロナウイルス感染症の収束による賑わいの回復	+19, 948 人
合計	128, 004 人

③数値目標の設定根拠



■歩行者通行量の推移

１）新計画において新規施策実施がない場合の令和９年度推計値

中心市街地において新計画による新たな活性化の取組が行われていない場合の令和 9 年度推計値は、現行水準のままで推移すると考え、前計画期間中の実績値からの推計値 98,361 人とする。

・令和９年度推計値　98,361 人
※推計値は、近似式により推計した数値　y ＝ -10,734ln(x) + 125,055

２）高知大丸「OMACHI360」の展開

高知大丸「OMACHI360」がオープンした令和４年９月の高知大丸の入店客数が前年比 6.2%増加した実績から、本事業の継続的な展開により、増加した入店客が高知大丸に近接した周辺商店街等（東エリア）を回遊すると仮定し、令和９年度推計値の歩行者通行量に対して 5%増加を見込む。

・令和９年度推計値（東エリア）26,039 人
※推計値は、近似式により推計した数値　y ＝ -4994ln(x) + 38449
26,039 人 × 5%　＝　<u>1,302 人増加</u>

３）おまち多目的広場利活用事業による増加

おまち多目的広場利活用により、おまち多目的広場周辺商店街の歩行通行量 5%（※）増加を見込む。
※２）高知大丸「OMACHI360」の展開による歩行者通行量の増加見込みを参考に設定

・令和９年度推計値（西エリア）67,691 人
※推計値は、近似式により推計した数値　y ＝ -5534ln(x) + 81441
67,691 人 × 5% ＝ <u>3,385 人増加</u>

４）商店街イベント事業による増加

各商店街の創意工夫によるイベント開催により、来街者の 5%がイベントにも来場することで、滞在時間が向上、新たな店舗や施設に訪れることでイベント後も日常的に来街する機会が増加すると仮定し、令和９年度推計値の歩行者交通量に対して 5%増加すると見込む。

・令和９年度推計値　98,361 人
98,361 人 × 5% ＝ <u>4,918 人増加</u>

５）シェアサイクル事業による増加

新たに導入するシェアサイクルはサイクルポート５か所、自転車台数 30 台を想定しており、令和９年度における１台・１日当たりの回転率目標値（0.5）から１日当たりの利用者数を算出、シェアサイクル利用者が中心市街地を３か所程度回遊すると仮定し 90 人の増加を見込む。
30 × 0.5 × 3 箇所 × 2 日間 ＝ 90 人

・1 日当たり利用者数　30 台 × 0.5 ＝ 15 人
15 人 × 3 か所 × 2 日間（平日・休日）　＝ <u>90 人増加</u>

６）新型コロナウイルス感染症の収束による賑わいの回復

前計画では、令和元年度時点で目標値を達成しており、新型コロナウイルス感染症拡大前（令和元年度）までの実績を加味した推計値によると 149,910 人の増加傾向が期待できた。

しかし、感染症拡大の影響により令和 2 年度以降大きく減少しており、令和 3 年度実績値を加味した新計画において施策を講じなかった場合、令和 9 年では 98,361 人と推計されることから、ウィズコロナ、アフターコロナにおいて、急激な歩行者通行量の数値回復、増加を見込むことは難しいことを考慮し、「令和元年度までの実績を加味した推計値」と「令和 3 年度までの実績を加味した新計画において施策を講じなかった場合の推計値」の中間値程度の回復を想定する。

ア）新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度までの実績を加味した令和 9 年度推計値 149,910 人

※推計値は、近似式により推計した数値 $y = 14,785\ln(x) + 113,171$

イ）令和 3 年度までの実績を加味した令和 9 年度推計値　98,361 人

※推計値は、近似式により推計した数値 $y = -10,734\ln(x) + 125,055$

ウ）ア）とイ）の中間値

98,361 人 ＋ （149,910 人 － 98,361 人）÷ 2 ＝ 124,136 人

エ）基準値から中間値ウ）の増加分

124,136 人 － 104,188 人 ＝ <u>19,948 人増加</u>

④フォローアップの考え方

現在実施している「商店街歩行者通行量調査」を活用し、毎年調査・集計を行い、目標達成進捗を確認するとともに、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。

なお、歩行者通行量は天候により測定値が左右されるため、予備日を設定するなど、同条件で測定できるように留意する。

目標年である令和 9 年度の数値についても、調査結果を踏まえて検証を行うものとする。

○参考指標１：拠点施設入館者数

コロナ禍を踏まえ、来街者数や滞在時間を増加させるため、今後、高知大丸のローカリティフロアの展開やおまち多目的広場利活用など東エリア・西エリア各々での回遊の向上と各拠点施設の磨き上げにより、来街者の増加を図る。そのため、来街者の増加による賑わいの回復を検証する参考指標として「拠点施設入館者数」を設定する。

基準値		目標値
1,020,017 人 （令和 3 年度）	→	1,600,350 人 （令和 9 年度）

580,333 人増加

①基準値の設定

以下拠点施設の令和 3 年度入館者数を対象として設定する。

・基準値　令和 3 年度入館者数　1,020,017 人

対象拠点施設	令和 3 年度入館者数
オーテピア	766,467 人
高知城歴史博物館	34,430 人
かるぽーと	201,112 人
高知よさこい情報交流館	18,008 人
合計（基準値）	1,020,017 人

②数値目標の設定

数値目標は以下の積算項目により設定する。

積算項目	数値
1)オーテピアにおけるソフト事業による増加	+233,533 人
2)高知城歴史博物館ソフト事業による増加	+50,570 人
3)かるぽーとにおける芸術文化振興事業，まんが文化発信事業による増加	+260,888 人
4)高知よさこい情報交流館運営事業による増加	+35,342 人
5)令和 3 年度入館者数実績	1,020,017 人
合計	**1,600,350 人**

③数値目標の設定根拠

1）オーテピアにおけるソフト事業による増加

オーテピア高知図書館は従来の図書館機能に加えて、点字図書館及びプラネタリウムを備えたこうちみらい科学館を併設しており、充実したサービスを継続して提供するほか、中心商店街におけるイベントへの参画や、オーテピア多目的広場を活かしたイベントの開催を新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施していくことにより、年間入館者数 1,000,000 人を目指す。

・オーテピアにおける年間入館者数の増加数

1,000,000 人（令和 9 年度目標）－ 766,467 人（令和 3 年度実績）＝ <u>233,533 人増加</u>

２）高知城歴史博物館ソフト事業による増加

高知城歴史博物館は、体験型の展示や映像、多彩な企画展・講座のほか、歴史まちあるき・ワークショップ・周遊企画等の開催や、日曜市や商店街と関連した取組により、年間入館者数 85,000 人を目指す。

・高知城歴史博物館における年間入館者数の増加数
85,000 人（令和 9 年度目標）－ 34,430 人（令和 3 年度実績）＝ 50,570 人増加

３）芸術文化振興事業，まんが文化発信事業による増加

市民の文化創造と生涯学習の拠点である高知市文化プラザかるぽーとでは、多彩な芸術文化イベントや夏季大学・市民学校などの学習講座の開催のほか、高知の文化資源であるまんが関連のイベントの充実等により年間入館者数 462,000 人を目指す。

・かるぽーとにおける年間入館者数の増加数
462,000 人（令和 9 年度目標）－ 201,112 人（令和 3 年度実績）＝ 260,888 人増加

４）高知よさこい情報交流館運営事業による増加

高知よさこい情報交流館は全国に広まった高知のよさこい祭りの情報発信や企画展の開催、体験型イベントを行っている。令和 4 年度はよさこい祭り特別演舞も開催されたことから、今後は地元商店街と連携しイベントの実施、企画展等の開催を継続、新規開催を行うことで、中心市街地への来街者増加に寄与し、入館者数 53,350 人を目指す。

・高知よさこい情報交流館における年間入館者数の増加数
53,350 人（令和 9 年度目標）－ 18,008 人（令和 3 年度実績）＝ 35,342 人増加

以上より、1）～4）から令和 9 年度では入館者数 580,333 人の増加が見込まれ、令和 3 年度実績から加算し、令和 9 年度の入館者数の目標を 1,600,350 人と設定する。

○参考指標２：中心市街地商店街の空き店舗率

中心市街地の魅力向上と賑わいの回復に向け、空き店舗を活用し、魅力ある営業店舗を増加させることで、商店街の魅力を高め、何度でも訪れたくなる「おまち」として充実を図る。そのため、商店街のニーズへの対応と活気の向上を検証する参考指標として「空き店舗率」を設定する。

基準値		目標値
15.8% （令和３年度）	→	14.4% （令和９年度）

1.4%改善

①基準値の設定

基準値は最新実績値（令和３年度 15.8%）を用いる。

基準値　令和３年度 15.8%

②数値目標の設定

数値目標となる空き店舗率を算出するための空き店舗数について以下の積算項目により設定する。

積算項目	数値
1)新計画において新規施策実施が無い場合の令和９年度推計値	113 店舗
2)＜目標１参考指標＞営業店舗数増加目標に係る空き店舗を活用した出店数の積算	-17 店舗
合計	96 店舗

③数値目標の設定根拠

1）新計画において新規施策実施が無い場合の令和９年度推計値

高知商工会議所と高知市が毎年 12 月に実施している商店街空き店舗調査における平成 25 年～令和３年の数値から推計を行った令和９年度の値は 113 店舗となった。

・令和９年度空き店舗数（推計値）　113 店舗　※近似式：　y ＝ 89.256e0.0159x

2）目標１参考指標営業店舗数増加目標に係る空き店舗を活用した出店数の積算

目標①参考指標で掲げる営業店舗数増加分を加味し、令和９年度の空き店舗数の目標を設定する。

目標①の参考指標、中心市街地商店街の営業店舗数の積算に係る営業店舗数の増加分（35 店舗）のうち、50%分を空き店舗を活用して起業したと想定すると令和９年度の空き店舗数は 96 店舗となる。

・営業店舗数増加目標に対する空き店舗数の積算

113 店舗（令和９年度空き店舗数推計値）－ 35 店舗 × 50% ＝ 96 店舗

よって、1)～2）から、令和９年度空き店舗率は、

令和９年度推計値（空き店舗数）÷｛令和９年度目標値（営業店舗数）+ 令和９年度目標値（空き店舗数）｝で算出する。

96 店舗 ÷（571 店舗 + 96 店舗）＝ 14.4%

○参考指標３：宿泊者数

中心市街地の魅力向上と賑わいの回復に向け、ナイトタイムエコノミー等の夜間の商店街の魅力を高めることで、宿泊を含めた滞在時間及び滞在日数の延伸を図る。そのため、来訪者の滞在日数の延伸を検証する参考指標として高知市内の「宿泊者数」を設定する。

基準値		目標値
119 万人泊 （令和元年度）	→	127 万人泊 （令和 9 年度）

8 万人泊増加

①基準値の設定

新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない令和元年度を基準値とする。

・令和元年度の宿泊者数　119 万人泊

②数値目標の設定

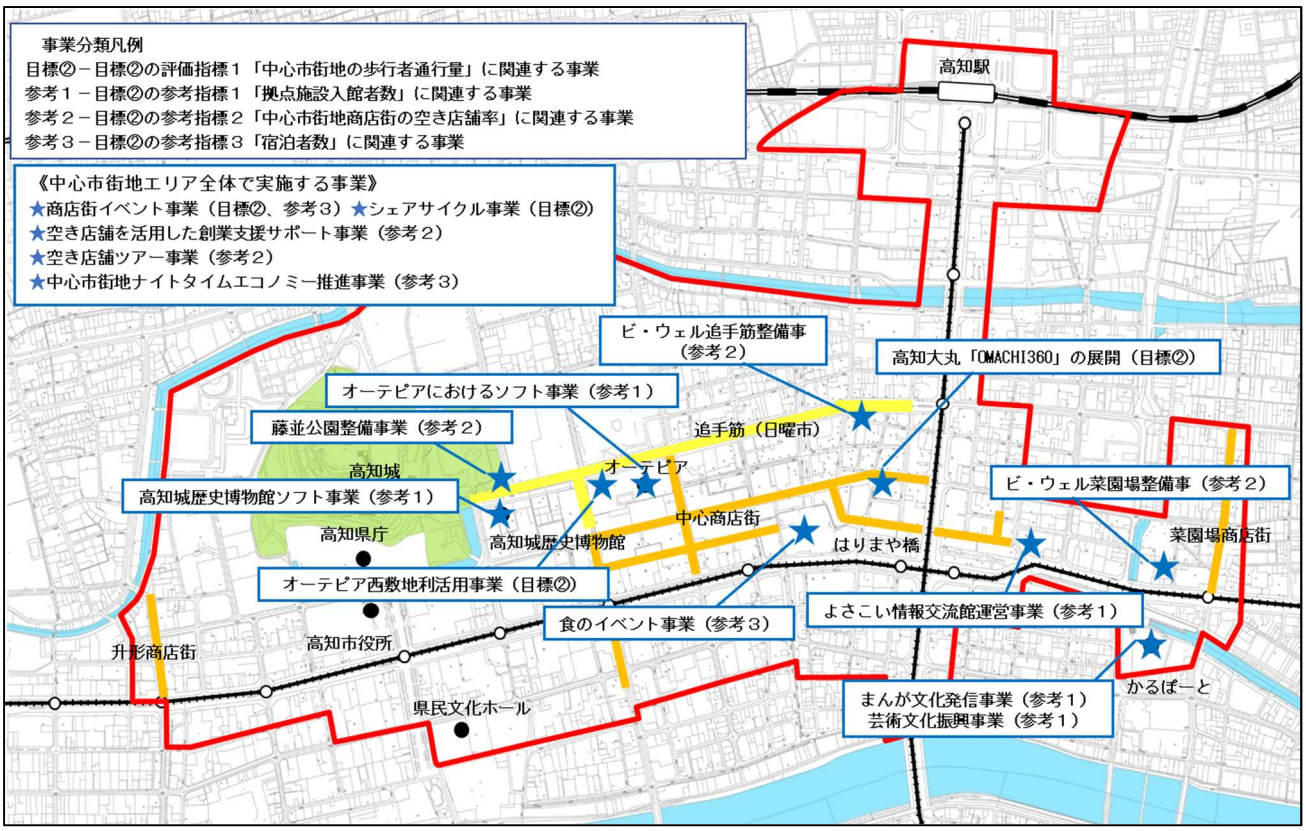
数値目標は 2011 高知市総合計画後期基本計画（計画期間令和 3 年～令和 12 年）に定める指標を引用することとし、令和 12 年で目標値を 130 万人泊と設定しているため、令和 9 における目標値（推計）は 127 万人泊となる。

③数値目標の設定根拠

「2011 高知市総合計画後期基本計画」から、推計値を算出する。

2011 高知市総合計画後期基本計画　（施策 35「観光魅力創造・まごころ観光の推進」の成果指標）

成果指標	指標の説明	基準値 （令和元年度）	中間目標 （令和7年度）	本計画目標 （令和9年度）	最終目標値 （令和12年度）
市内の延べ宿泊者数	年間の高知市での延べ宿泊 者数（１月から12月まで）	119万人泊	125万人泊	127万人泊	130万人泊

※毎年1万人ずつ推計

■「目標②：おまちのさらなる魅力向上と賑わいの回復」の評価指標（中心市街地の歩行者通行量）及び参考指標に関する事業の実施箇所